

平成28年度

「教育委員会の点検・評価」報告書

(平成27年度事務事業対象)

平成28年8月

那須町教育委員会

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」(H20.4.1)の施行を受け、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することといたしました。

町教育委員会では、第6次那須町振興計画「ハートフル那須プラン」を策定し、このビジョンをもとに様々な施策を展開しております。

本報告書は、「ハートフル那須プラン」に基づき、平成27年度の主要事業や新規事業、教育委員会の開催状況等について、点検・評価を行い、その結果を総括的にまとめたものです。また、その間、教育委員会の点検・評価委員会を開催し、学識を有する方々からご意見をいただきました。

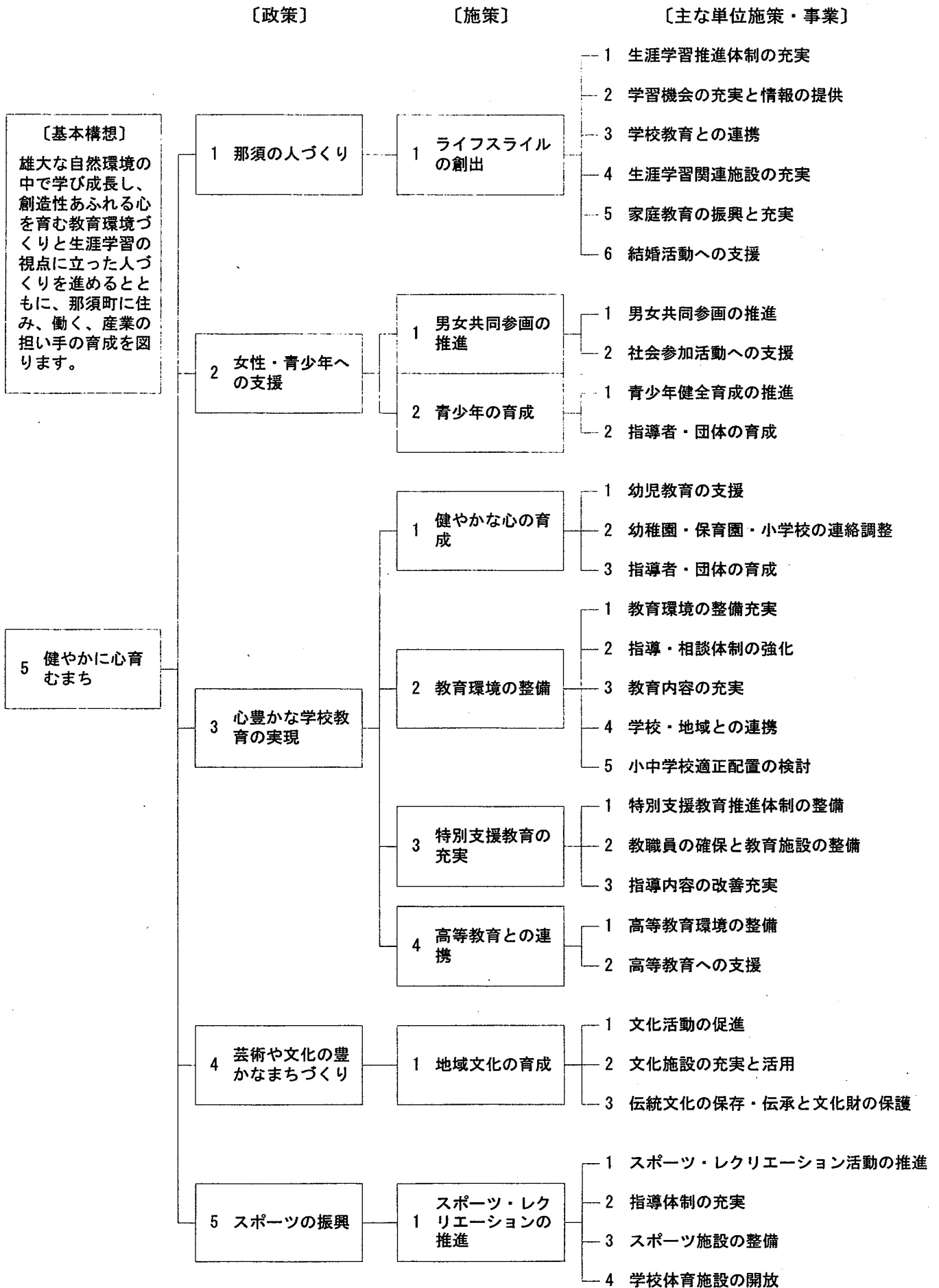
町教育委員会といたしましては、この点検・評価を次年度への改善に生かすことにより、那須の子どもたちが、より一層、自らが判断し行動できる力を身に付け、社会的に真に自立し、明日への社会をしっかりと担える人づくりを進めるとともに、「夢・感動あふれる人づくり」を教育ビジョンとして掲げ、知・徳・体・コミュニケーションの4本柱を基本に、バランスのとれた児童生徒の育成に力を入れ、各施策に取り組んでまいります。

町民の皆様には、本町の教育・文化・スポーツの充実・発展のため、今後ともご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年8月

那須町教育委員会

『ハートフル那須プラン（町振興計画・後期）』 施策の体系



平成28年度 教育委員会点検・評価対象事務事業一覧 (27年度実施事業)

No.	対 象 事 務 事 業	振興計画との関係	課 名	備 考
1	教育委員会の活動状況について			4頁
2	4 公民館共催事業	学習機会の充実と情報の提供	生涯学習課	5頁
3	結婚活動支援事業	結婚活動への支援	生涯学習課	6頁
4	町子ども会育成会連絡協議会支援事業	指導者・団体の育成	生涯学習課	7頁
5	耐震補強等推進事業	教育環境の整備充実	学校教育課	8頁
6	教育指導・相談体制推進事業	指導・相談体制の強化	学校教育課	9頁
7	国際理解教育推進事業	教育内容の充実	学校教育課	10頁
8	学力向上の推進	教育内容の充実	学校教育課	11頁
9	小中学校適正配置事業	小中学校適正配置の検討	学校教育課	12頁
10	小中学校教育活動支援事業	特別支援教育推進体制の整備	学校教育課	13頁
11	奨学生事業	高等教育への支援	学校教育課	14頁
12	町伝統芸能継承支援事業・ 文化財管理事業	伝統文化の保存・伝承と文化財の保護	生涯学習課	15頁
13	那須高原マラソン大会支援事業	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	16頁
14	全日本自転車競技選手権大会支援事業	スポーツ・レクリエーション活動の推進	生涯学習課	17頁
15	総合運動公園整備事業	スポーツ施設の整備	生涯学習課	18頁

## I 本町における「教育委員会の点検・評価」

### 1 目的

教育委員会が立てた基本方針に沿って具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが点検・評価を行なうことにより、効果的な教育行政をより一層推進するとともに、町民への説明責任を果たしていくことを目的とします。

### 2 点検・評価の対象

本町の教育行政は、平成23年度から27年度までの5カ年計画である「ハートフル那須プラン」後期計画をもとに推進しており、教育委員会の点検・評価は、各種施策において、平成27年度の主要事業や新規事業、主な推進指標の進捗状況等を対象に実施します。

### 3 点検・評価結果の構成

#### ○目標

ビジョンの施策体系ごとに、目標を掲げています。

#### ○主な施策

目標を達成するため主要事業や新規事業について、その目的や実施状況を記載しています。

#### ○成果及び課題

平成27年度の主な施策、推進指標の達成状況等について、成果・課題を記載しています。

#### ○点検・評価委員からの主な意見

点検・評価委員からいただいた主な意見を記載しています。

#### ○今後の対応・方向性

点検及び評価を踏まえ、目標の達成に向けた今後の対応方向を示しています。

### 4 委員会（会議）の設置

点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する者から意見を聴取する委員会を設置しました。

委員会の委員は、次のとおりであります。

氏名	役職
常盤 隆	元那須公民館長（生涯学習）
中島 慶子	元大島小学校教頭（学校教育）

### 5 議会への報告

平成28年9月までに議会に報告します。

また、報告書は那須町のホームページにて公表します。

## II 教育委員会の活動状況について

### 1 教育委員会議等の運営及び開催状況等

教育委員会は、原則として年6回の定例会、また、必要に応じて臨時に開催しています。平成27年度の開催状況は、次のとおりであります。

#### 【会議の開催状況】

- 定例会 …………… 6回
- 臨時会 …………… 0回

### 2 教育委員会議の内容

教育委員会は原則公開になりますが、人事に関する議案を審議する場合等では、出席委員の3分の2以上の多数をもって、非公開の会議とする場合があります。

定例会及び臨時会で審議された内容別の件数は、次のとおりであります。

#### 【付議内容及び件数】

- 教育行政の運営に関する基本方針に関すること …………… 3件
  - 人事・服務に関すること …………… 3件
  - 規則等の制定、改廃に関すること …………… 20件
  - 学校教育に関すること …………… 1件
  - その他 …………… 0件
- △審議案件のほか、報告事案21件についても取り扱いました。

### 3 教育委員会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会議以外の活動として、施策の勉強や研修会への参加、学校訪問などを実施しています。

- 研修会等参加 …………… 5月29日 於：新潟県長岡市研修  
7月22日 於：茨城県視察研修  
10月16日 於：那須町役場 西郷村教委との合同研修会  
11月11日 於：宇都宮市 県教育委員会研修会  
11月18日 於：伊王野小学校 民生文教常任委員との懇談会  
12月22日 於：那須町役場 社会教育委員との懇談会  
1月26日 於：那須町 会津美里町との研修会
- 学校訪問 …………… 6月27日 : 4小学校：新任校長との意見交換
- 総合教育会議 …………… 2回
- 教育連合会等関係機関会議 …………… 3回
- 各種行事 …………… 12回 : 小中学校卒業式、教職員の辞令交付式等、成人式  
生涯学習フォーラムほか

### 4 教育委員一覧

(平成28年8月1日現在)

職名	氏名	委員任期
委員長	大森源一郎	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員長職務代理者	鈴木 尚哉	平成24年10月1日～平成28年9月30日
委員	菊地 厚子	平成27年10月1日～平成31年9月30日
委員	菊地 昭一	平成26年10月1日～平成30年9月30日
委員(教育長)	平久井好一	平成25年10月1日～平成29年9月30日

### Ⅲ 教育に関する事務の執行の点検及び評価

#### 第1節 那須の人づくり

##### 1 ライフスタイルの創出

###### 目 標

「まちづくり・人づくり」の目標に向けて、町民の多様な学習ニーズに応え生涯にわたり「いつでも、どこでも、だれでも」学習でき、学んだことを地域活動に活用できるよう、

学習活動の支援や指導者の育成に努めます。また、生涯学習関連施設では学習活動の成果を発揮できる機会・場の提供を行うとともに、学習活動の拠点として利用促進に努めます。

主な施策名	学習機会の充実と情報の提供
事務事業名	4 公民館共催事業
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少子高齢化、高度情報化、健康づくり等多岐にわたるテーマの学習機会と情報提供を通して、人づくり・生きがいを進める。</li> <li>・ 各公民館の地域特性や資源を活かした講座を実施し、「生涯学習のまちづくり」の推進を図る。</li> </ul>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『那須を学ぶ』回数：3回 参加者数：101人</li> <li>・ 『那須の子ども塾』回数：1回 参加者数：50人</li> </ul>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4館が連携することにより、それぞれの館が持つノウハウを活かしつつ、町内資源を活用した内容で実施することができた。また、事前準備から複数のスタッフで対応することができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内の特色を活かした講座を実施することで、参加者に対し各地域の魅力をより深く紹介することができた。また、地元の方を講師に活用することで、活動の発表の場を提供し、人材の育成につなげることができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町内の環境資源を活用し、町の将来を担う子どもたちにそこに根差す産業や働く人々の姿を紹介し、活動を通じて人や自然とふれあう機会を創出することができた。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者の皆さんは調査したり体験したりと興味を持って参加していると思う。お互いに地域をよくするという観点から、合同で実施するというのは良いことだと思う。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「那須の子ども塾」については、参加者を当初の30名から50名に増やしているものの、なおも17人の子どもたちが漏れているので、できるだけ多くの人数が参加できるよう対応してもらいたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 携わるスタッフのことが課題となっていたが、合同ということで複数のスタッフが対応しており、また、地元の方を講師として依頼しておりよい傾向にあると考えている。引き続き続けてもらいたい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 4公民館の連携を密にし、幅広い年代層、多様化する町民のニーズに応えられるようスケールメリットを活かした事業を展開する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「那須の子ども塾」の開催が他事業と重複しないよう時期を考慮するとともに、希望者の全員が参加できる環境を整える。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地元講師を活用するとともに、民間では提供されにくい分野の講座、地域課題解決に向けた事業に取り組む。</li> </ul>

主な施策名	結婚活動への支援
事務事業名	結婚活動支援事業
目的	近年、さまざまなライフスタイルと意識の変化により、未婚者が増加している一方で、結婚願望を持つ若者も多く存在していることから、出会いの場作りやライフプランに関するセミナーを開催するなど、多面的な施策により結婚への支援を展開する。
実施状況	○那須町出会い応援事業（カップル成立11月 2組） 出会い①11月：男女交流イベント（参加者数：男性7人、女性6人） 出会い② 2月午前・男女別セミナー 出会い③午後・男女交流イベント（参加者数：男性8人、女性5人） ○地域結婚サポーター支援（地域結婚サポーター9名、情報交換会9回）
成果及び課題	・ イベントに先立ち男女別セミナーを開催し、話し方等を学び異性に対する不安が解消され、自信が持てるようになった。
	・ 交流イベントでは、和やかな雰囲気の中で会話に花が咲いたが、女性の参加が男性に比べ少ないことや男女比のバランスが悪いことから、カップル成立も2組と少なかった。
	・ 県から委嘱されている「とちぎ未来クラブ地域結婚サポーター」9名が「なすの未来クラブ」を立ち上げ、結婚サポーターとして月1回情報交換を行なっているが、まだ、情報量が少なく縁結びまでには至っていない。
点検・評価委員からの主な意見	・ イベントは男女同数が望ましい。
	・ 結婚サポーターの方を大田原市独自でマイスター60人登録しているいるので、那須町も増やしてはどうか。
今後の方針	・ 女性が参加しやすい魅力あるイベントとなるよう内容を充実する。
	・ 1月に県が開設する「とちぎ結婚サポートセンター」の有効活用を図るとともに、結婚サポーターの増員や活動の活発化を図ることで、マッチング機会の充実を図る。



## 目 標

青少年を取り巻く社会環境は、少子化、情報化、国際化、消費社会化が進行し、更に学校教育制度の変化、就労形態の多様化や職業意識に変化が生じていることから、青少年の健全育成を進めるため、家庭、学校、職場、地域が一体となった取り組みを推進するとともに、将来の町の担い手となる青少年の指導者を養成します。

主な施策名	指導者・団体の育成
事務事業名	町子ども会育成会連絡協議会支援事業
目 的	子供会育成会の活動を支援し、地域活動の環を広げ、子どもたちの社会性を培うとともに、明るくたくましい子どもを育成するとともに、体験をとおして情緒豊かな子どもの健全育成を図る。
実施状況	総会1回（5月）、役員会2回 「町子連だより」の発行（2回）（H26年度より） 「町子連主催イベント」（中止） 指導者育成者研修会」（段ボールピザ作り） 「子どもフェスティバル出店参加」 1団体
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>町単位子ども会育成会が105（H27年度）あり、どの子ども会も会員数の減少により、ほとんど活動していない子ども会が増えている。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会育成会の統合に向けて総会、役員会を開催し、子ども会育成会への理解が深まった。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会や自治公民館との関係で統合が難しい育成会が多いが、子ども会育成会の理解を深めつつ、単位子ども会育成会の活性化に向け、統合をさらに進める必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども会活動発展のためにも単位子ども会の統合を進められたい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の発展にも繋がる子ども会活動への支援されたい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>単位子ども会の理解を得て、子ども会の統合を促進していく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>町スポーツレクリエーション大会でソフトバレーチームの参加方法を学校単位から子ども会単位に変えるなど、子ども会統合に向けた機運を醸成する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動等、児童生徒が関わる事業の日数が増えてきていることから、コミュニティカレンダーを活用し、地域活動へ参加しやすい環境を整える。</li> </ul>

## 目 標

人間尊重の教育を基礎に、次代を担う人材として心身ともに健やかで実践力のある児童生徒の育成を目指す中で、児童生徒の指導体制、教育内容の充実に努めます。

また、児童生徒が集団生活を通し切磋琢磨しながら自主性、社会性を培うため、一定規模の集団を確保する学校適正配置を推進します。

なお、校舎等の耐震化を進め、安全・安心な教育環境を整えます。

主な施策名	教育環境の整備充実
事務事業名	耐震補強等推進事業
目 的	児童生徒にとって、より良い教育環境を構築するため、小中学校の耐震補強工事を進め、安全・安心な学校づくりに努める。
実施状況	Is値0.7未満の校舎・体育館等の施設の耐震化を実施している。 小学校10校21棟、中学校3校12棟（H27年度現在） 1 H25 小学校17棟完了、中学校12棟完了、耐震化率 80.6% 2 H26 小学校17棟完了、中学校12棟完了、耐震化率 87.9% 3 H27 小学校19棟完了、中学校12棟完了、耐震化率100.0%
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の適正配置計画により閉校となる学校については、学校施設から普通財産となるため、平成27年度末をもって学校施設耐震化は全て終了となる。</li> <li>閉校になる学校施設については、地域活性化の問題もあるので、地域の拠点施設としての利活用についても検討していくべきである。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校が閉校となったことで、地域住民の学校に対する意識の低下や、地域のまとまりが無くなりつつあるのが感じられるので、社会教育も含めて、地域活性化に向けた対策を検討して欲しい。</li> <li>閉校となった学校を中心に、地区行事などを積極的に行って欲しい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉校となった学校施設の跡地利用については、公有財産利活用検討委員会において、教育委員会として有効利用についての意見を提案する。</li> <li>閉校となった学校施設（グラウンド等）は、地区行事などで利用しやすいよう周辺整備を行い、適正な維持管理に努めたい。</li> </ul>

主な施策名	指導・相談体制の強化
事務事業名	教育指導・相談体制推進事業
目的	学校に通うことができない児童生徒を対象に、保護者の理解を得ながら適正な就学指導を図り、学校への復帰支援を行なう。また教育相談の必要な保護者・教員への支援を行う。
実施状況	学校に通うことの出来ない児童生徒に対し、原籍校への復帰を図っている。また教育相談を受けた保護者・教員の不安解消に努めている。 1 平成27年度の相談の状況 ①電話相談781件 ②家庭訪問165件 ③来室相談329件 ④学校訪問72件 2 通室人数 小学生1名 中学生9名 3 復帰人数 小学生0名 中学生4名
成果及び課題	不登校及び学校不適応傾向にある児童生徒の自立を促し、スクールカウンセラー及び心の教室相談員を活用し、学校生活への適応を図るための指導援助を行った。
	児童生徒への支援とあわせ、各家庭（保護者）の支援が課題であるので、福祉部局との連携により家庭支援に繋げるための体制の構築を図る。
	個々に対しての具体的な支援（卒業後の生活支援も含む）に繋がるような支援をするため、医療機関及び福祉部局との連携の構築を図る。
点検・評価委員会からの主な意見	学校への復帰に向けて丁寧な関わりをしているので、支援を継続して欲しい。
今後の方針	不登校が増加している中で、原因は複合的な要因があるが、個々においての適切な指導援助を他の機関と連携を図りながら進めていく。

主な施策名	教育内容の充実
事務事業名	国際理解教育推進事業
目的	小中学校に英語指導助手を配置し、児童・生徒の英語語学能力の向上を図る。また、中学生の海外派遣を通し、英語圏の青少年との交流及びホームステイの体験を行い、国際理解と町の将来を担う人材育成を推進する。
実施状況	<p>1 英語指導助手等配置 英語指導助手5名（うち2名はネイティブ）により外国語(英語)能力及び国際理解教育を推進するための授業を実施している。 (小学校 延べ450日 中学校 延べ407日)</p> <p>2 那須町中学生海外派遣事業 オーストラリア ケアンズ市 (H27.11.14~H27.11.21) 中学生16名 事前研修7回、事後研修4回（うち1回：小学校において活動報告を実施）</p>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の連携を一層深めるために、研究授業を小・中学校でそれぞれ1回ずつ実施した。小・中学校をつなげるにあたり、成果と課題を相互に共有することができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣事業は、以前より事前研修及び事後研修を増やしたことにより、より事業内容が充実している。また、事後研修において小学校での発表を行っており、派遣団員たちは、より自信を持つことができているので継続していきたい。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童・生徒の英語能力向上のため、今後とも指導助手の人材確保に努めて欲しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣については、自国文化についてその良さを知る機会にもなるので継続していく必要があるが、同時に郷土学習を学ぶ内容も盛り込んで欲しい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導助手の人材確保に努め、英語教育において指導助手間の連携協議により学力向上を図る。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外派遣事前研修の中で、郷土学習の充実を図り、自国文化を理解した上で、それをオーストラリアで伝えられるための研修を行っていく。</li> </ul>

主な施策名	教育内容の充実
事務事業名	学力向上の推進
目的	那須町小中学生の学力向上を図るために、学習の基礎、基本を身につけ、夢に向かって生き生きと生活できる子どもの育成を目指す。
実施状況	那須町学力向上推進委員会の開催 1 開催数：2回 2 委員数：男性6名、女性10名
成果及び課題	<p>本町の児童生徒の学力は、全国平均と比較すると「同じ」か「やや低い」状況にあります。「やや低い」とは、いずれの領域においても、あと1問正解すれば国平均を超えるか、並ぶ状況です。今年度は、小学校の算数Aと理科が全国平均を超えました。活用力を問われるB問題については、小・中学校ともに全国平均を下回っており課題と言える。</p>
	<p>全国学力調査の中の質問紙調査から本町の児童生徒は、朝食を毎日食べ、早寝早起きを心がけるなど、概ね規則正しい生活を送っている。家で計画を立てて勉強する、宿題や予・復習をしているといった、家庭での学習に関する項目が全国値を上回る。また、「今住んでいる地域の行事に参加している」、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」といった項目では全国値を大幅に上回っている。「那須町版コミュニティスクール」の取組が二年目を迎え、様々な特色ある活動が行われており、自分たちの住む地域に関心をもち、地域とともに学ぶ本町の児童生徒の姿が見受けられる。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<p>全国学力調査の中の質問紙調査の結果については、家庭や地域との関わりの方が分かり大変良い結果であった。</p>
今後の方針	<p>全国学力調査の結果を踏まえ、どのように活用できるかを検討し、今後の指導内容の充実を図っていく。</p>

主な施策名	小中学校適正配置計画の検討
事務事業名	小中学校適正配置事業
目的	子どもたちにとってより良い教育環境を構築するため、那須町学校適正配置等計画を推進する。
実施状況	当初の計画から統合時期などの計画変更は生じたものの、適正配置自体は概ね計画どおり進めることができた。組織された適正配置準備委員会においては、統合に向けた協議・検討が行われた。 ○ 適正配置準備委員会 3組織 計11回開催
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織された適正配置準備委員会において、新しい学校づくりのための協議・検討が進められた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域、保護者の理解が得られていない学校区があり、引き続き十分な理解を得る必要がある。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>拠点校整備のため、校舎や屋内運動場などの改修・改築工事が必要であり、工事執行のための予算確保が必要である。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉校となった学校区においては、地域の活性化を図る上でも、地域との調和を考慮した学校跡地の有効利用を十分に考えて欲しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達にとって、より良い環境を整えるために必要な事業と考えられるので、合意が得られていない地域については、地元の理解が得られるよう、引き続き調整して欲しい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校跡地の利活用については、那須町公有財産利活用検討委員会において協議検討を行っているが、地域の意向、ニーズについては十分に配慮した利活用を考えていく。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>合意形成に至っていない地域については、地域関係者との調整を図り統合時期を検討する。</li> </ul>

## 目 標

特別支援の必要のある児童生徒が、将来、社会人として自立できるよう、学校内で支援体制の充実を図るとともに、施設及び教材備品など教育環境の改善を図ります。

主な施策名	特別支援教育推進体制の整備
事務事業名	小中学校教育活動支援事業
目 的	<p>複式学級児童が、指導助手の配置により、国語・算数等の授業を単式学級と同じように受けられる。</p> <p>特別支援学級の開設により、児童・生徒が個々に合った適切な指導を受けられる。</p> <p>特別支援指導助手の配置により、各授業において専門的な指導を受けられる。</p>
実施状況	<p>複式学級の児童や特別支援が必要な児童生徒に対する支援を行う指導助手を配置している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 複式対象学級 5学級 (美野沢小3、芦野小1、那須小1)</li> <li>2 複式解消指導助手 5名</li> <li>3 特別支援対象学級数 18学級 (小学校8校12学級、中学校3校6学級)</li> <li>4 学習支援・特別支援指導助手 40名</li> </ol>
成果及び課題	<p>支援を必要とする児童生徒に対し、各校の特別支援教育コーディネーター及びスクールカウンセラーや教育相談員と連携し、困難な事例に対する対応や、保護者、関係機関との体制の構築が図られてきている。</p> <p>また、地域巡回事業により個別事案に対しての支援が図られてきている。今後も学校全体の支援に繋がるような活用に努める。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<p>関係機関との連携により実施している地域巡回事業は、これからも継続して実施して欲しい。</p>
今後の方針	<p>複式学級及び特別支援学級における指導助手の配置と、学習・生活支援の指導助手の適切な配置を継続して実施していく。</p> <p>学校と関係機関の協力により、支援体制の構築を更に図っていく。</p>

## 目 標

時代の要請に即した優秀な人材を育成、確保するため、高等教育環境の整備充実を関係機関に働きかけるとともに、町の奨学資金制度等により意欲ある人材の就学を支援します。

主な施策名	高等教育への支援
事務事業名	奨学生事業
目 的	高い学習意欲をもちながら、経済的理由により就学困難な者に、奨学資金貸付制度を活用し、町の将来を担う優秀な人材を育成する支援を行う。
実施状況	貸付額 専修・短大・大学生30,000円/月、高校・高専生15,000円/月 1 H25貸付者 15名（うち新規貸付者 6名）年間貸付額5,040,000円 2 H26貸付者 24名（うち新規貸付者15名）年間貸付額7,380,000円 3 H27貸付者 28名（うち新規貸付者 9名）年間貸付額8,280,000円 H27内訳 大学生14名、専門学校生4名、高校生10名 （うち新規貸付 大学生5名、高校生3名 計8名）
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>奨学資金選考委員会において審議した結果、希望者全員に奨学金を貸付けすることができた。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>返還金の一部滞納者がおり、返済方法の相談等、継続して滞納額の減少に向けた取組みが必要である。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的に就学が困難な家庭への支援のため、継続して欲しい。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も、滞納の減少に向けた取組みをお願いしたい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>滞納者については、今後も継続して返済方法の相談に応じる他、滞納額の減少に向けた対策を講じていく。</li> </ul>



第4節

芸術や文化の豊かなまちづくり

1

地域文化の育成

目 標

町民の文化活動を促進するため、世代間の連携と活動の展開を図り、文化施設の利用促進と指導者の育成等、町を担う人づくりとその支援のための環境づくりを推進します。伝統文化の保存・伝承に努めるとともに文化財の保護と活用に努めます。

主な施策名	伝統文化の保存・伝承と文化財の保護
事務事業名	町伝統芸能継承支援事業・文化財管理事業
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能保存団体が、貴重な伝統芸能を継続的に保存する。</li> <li>・文化財の保存に努め、町の貴重な財産として後世に残す。</li> </ul>
実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能を保存する団体の保存・継承活動に要する経費の一部を助成している。9団体×45,000円=405,000円</li> <li>・解説看板の修繕等 1基 43,740円</li> <li>・文化遺産管理費補助金 2件 340,000円</li> <li>・小深堀の植物群保存管理費補助金 100,000円</li> </ul>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小深堀の植物群を町の天然記念物に指定し、管理運営費を支出したことにより、希少価値のある植物群の維持管理に努め保存することに期待できる。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能が脈々と受け継がれているが、後継者不足で継承できない団体が出始めている。</li> <li>・伝統や地域ごとの風習などを守りながらも、時代に沿うような変化も視野に入れ伝統芸能の継承について検討する段階に来ている。小中学校との連携で、伝統芸能に触れる時間を確保することによって若い世代から伝統芸能に親しむことが出来る体制を整備する必要がある。</li> <li>・町主体で祭囃子教室を開催しているが、生徒20名のうち、小学生から高校生までの子どもが5名である。伝統芸能に気軽に触れる機会を提供し後継者育成に繋がるよう継続的な支援が必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の文化財に関する情報を整理して、町民をはじめ多くの人に町文化財について理解してもらえるよう情報の発信を行う必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちに伝統芸能に触れる時間を確保することによって、伝統芸能に親しむ機会の提供に繋がる。住んでいる地区にかかわらず、関心を抱いた郷土芸能に身近に触れることのできる体制整備が必要である。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統芸能を保存するため、各保存会では風習やしきたりなどを大切にしているが、後継者育成のために、時代に沿った対応も必要であることを保存会と町が共に検討していく必要がある。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土愛の醸成に繋がるよう、幼稚園、保育園、小中学校、各保存会との連携により、各地域に伝承されている伝統芸能に身近に触れる機会を提供できるよう検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各保存会における風習やしきたりを大切にしつつ、時代に応じた後継者育成方法や伝統芸能の保存方法を保存会と共に検討する。助成金のあり方についても検討する。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町に所在する文化財を知ってもらえるよう、町広報紙、ホームページ、フェイスブックなどを活用した積極的な情報発信を行う。</li> </ul>

第5節

スポーツの振興

1

スポーツ・レクリエーションの推進

目 標

町民が健康で活気にあふれ、生きがいのある生活が送れるよう生涯スポーツの推進のため、地域住民のニーズに応じたスポーツ・レクリエーションの普及と指導体制の充実や施設の整備に努めます。

主な施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
事務事業名	那須高原マラソン大会支援事業
目 的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民の健康増進や親子のふれあい、競技力向上を図る。</li> <li>・町外からの参加者を募り、観光振興を図る。</li> </ul>
実施状況	<p>りんどう湖LAKEVIEWを発着として、ハーフマラソン・2K・3K・5K・10Kの23カテゴリーを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・期 日：11月29日（日）</li> <li>・参加者：2,049名（町内805名、町外1,244名）</li> </ul>
成果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年々参加者も増え続け、特色の有る大会となり好評を得ている。ハーフマラソンの導入により、観光誘客や競技力向上につながっているが、交通整理スタッフが不足しており、スタッフの確保や経費の面で安定した財源の確保などの課題がある。</li> <li>・また、子どもたちが参加しやすいようカテゴリー等の見直しを行い、小中学生の参加を増やす必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町のイベントの目玉となっており、町外の人も多く参加しているので、スタッフの確保と財源確保をしながら盛り上げてほしい。</li> </ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当面、スタッフ等についてはボランティアを募集しつつ、各団体等から協力をいただきながら実施し、町民や参加者に愛される大会を目指していく。</li> <li>・財源については、参加者の増を目指し、さらにスポンサーを募りながら財源確保を目指す。</li> </ul>

主な施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進
事務事業名	全日本自転車競技選手権大会支援事業
目的	国内最高峰の全日本自転車ロードレース大会が当町で開催されることは、サイクルスポーツの振興や、スポーツツーリズムの推進だけでなく、当町を広く全国に発信できるまたとない機会である。全国からのお客様を温かくお迎えするとともに、那須の素晴らしさも伝え、新たな地域活力に繋げていく。
実施状況	<p>第84回全日本自転車競技選手権大会ロードレースを平成27年6月27日、28日の2日間にわたり開催した。</p> <p>主催は（公財）日本自転車競技連盟であるが、大会運営や事務手続き等は全日本自転車競技選手権那須大会実行委員会となるため、町は運営全般や交通規制、誘客等を担った。</p> <p>近年の自転車ブームや関東初開催ということもあり、注目度も高く全国からの誘客を含め、那須ならではの大会運営を目指し、交通規制関係や迂回路、駐車場等の周知方法を充実させて実施した。</p>
成果及び課題	<p>おもてなしとして那須サイクルフェスタと題し、飲食ブースや展示ブース等を設置し、大会を盛り上げた。</p> <p>大会期間中、大きな事故もなく、観客数（35,000人）、選手数（589名）マスコミ数（45社117名）等、記録尽くしの大会となったが、運営面において予想以上に経費が増大してしまったことや安全性を考慮しスタッフ数が多くなったしまったこと等、課題が見えた。</p> <p>誘客や那須町の知名度の向上等において一定の成果は出ているものの、交通規制に伴うコース沿線沿いの住民・企業の理解を得る必要がある。</p>
点検・評価委員からの主な意見	<p>関東初開催で、一定の成果も出ており、記録尽くしの素晴らしい大会であった。</p> <p>しかし、沿線沿いの住民や企業のデメリットも考え、何のために開催するのか打ち出してほしい。</p> <p>さらに、初開催と言う事もあり課題もあったようだが、いろいろな角度から洗い出しをして、今後活かしてほしい。</p>
今後の方針	<p>全日本自転車競技選手権大会は、町内のサイクルスポーツの振興を図り、①豊かな地域資源である自然を活かしたスポーツ・ツーリズムの推進、②全国に情報を発信する機会の創出、③新たな地域振興に資することを目的として開催したところであり、一定の成果は出ていると思われるので、機運を逃さず、課題等を整理し、次回開催に向け準備を進める。</p> <p>さらに、「町民ひとり1スポーツ」のスローガンのもと、サイクルスポーツの浸透を図り、町民の健康増進と地域振興対策を推進する。</p>

主な施策名	スポーツ施設の整備	
事務事業名	総合運動公園整備事業	
目的	子どもから高齢者が、気軽にスポーツに親しみ、楽しむことができる環境を整える。	
実施状況	総合運動公園の建設にかかる事前調査を行い、概算事業費を算出したところ高額であり、町の財政状況等を勘案し当面整備を先送りとした。	
成果及び課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>総合運動公園の整備を先送りとしたが、整備の趣旨に鑑み、ニーズの高いスポーツ施設の個別整備を図りつつ、ソフト事業を実施していくとともに将来の整備に向けた調査を進める必要がある。</li> </ul>
点検・評価委員からの主な意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>工事費や人件費等の高騰による建設先送りはやむを得ないが、引き続き整備に関する準備と更なる研究を進めてほしい。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズの高いスポーツ施設については、先行整備を進めてほしい。</li> </ul>
今後の方針		<ul style="list-style-type: none"> <li>総合運動公園整備については、建設費の高騰などの理由で先送りとしたが、財政面を勘案し整備時期の検討をするとともに更なる調査・研究を進める。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>テニスコートの個別整備を進めるとともに現行施設の利用に支障をきたさないよう維持管理を引き続き行う。</li> </ul>